



テキサス大会スケジュール・地域分科会の紹介

第12回日米草の根交流サミット・テキサス大会の参加者募集が始まりました。募集要綱も完成し(右参照)配布の準備を整えるとともに、ホームページへも近日中にリリースします。10月の広島大会に引き続き11月に開催されるテキサス大会の概要が決まりました。「2002 Manjiro Texas Summit Volunteer Executive Committee」が毎週火曜日の定例会議等精力的な活動を継続して皆さんのお越しをお待ちしています。大会は5地域での分科会とホームステイを中心に構成されており、そのタイトルは以下のとおりです。



【地域分科会】

1. A Celebration of History & Diversity
~多文化テキサスの歴史を辿って~ San Antonio
2. Capitol & High Tech City
~緑と水のきれいな町~ Austin
3. The Oldest Town in Texas: A Travel through Time
~テキサス最古の町: 時間を超えて~ Nacogdoches
4. Sports City
~躍動! 若者とスポーツの町~ College Station
5. POWER of Houston
~熱き出会いを求めて~ Houston

オプショナル・プログラム

ニューヨーク&ボストン、ダラス・フォートワース、コロラドスプリングス、ロサンゼルスを準備しています。

【スケジュール】

- 11/12 (火) 日本発 ヒューストン着
 - 11/13 (水) フリー NASA/ジョンソン宇宙センター訪問可
 - 11/14 (木) オープニング・セレモニー
ウエルカム・パーティ
 - 11/15 (金) 地域分科会(ホームステイ)
 - 11/16 (土) 地域分科会(ホームステイ)
 - 11/17 (日) 地域分科会 フェアウエルパーティ
 - 11/18 (月) ヒューストン発
 - 11/19 (火) 日本着
- オプション参加者は11/22(金)日本着

参加費・お申し込み方法

参加費(一人当たり)

大人	249,000円
中・高・大学生	189,000円
小学生以下(2歳以上)	149,000円
乳児(2歳未満)	20,000円

オプショナル・プログラムは別途。

参加費に含まれるもの

1)参加登録費

(オープニングセレモニー、ウエルカム・フェアウエルパーティ、地域分科会などのプログラム企画運営・コーディネート費用)

2)交通費

(日本~ヒューストン間の往復エコノミークラス航空運賃、米国内でのバス料金等) 千歳、山形、庄内、名古屋、伊丹、関西、広島、福岡、鹿児島空港

3)宿泊費

(2名一室、4泊、税・サ・朝食込)

Inter Continental Hotel, Houston

2222 West, Loop South Houston, TX 77027 Tel +1-713-627-7600

ホームステイは各地域のボランティアの方々を受け入れます。

お申し込み締切日

2002年8月30日(金)

行ってみよう! 見てみよう! NASAジョンソン宇宙センター!

ヒューストンでのフリータイム(11/13(水))では是非お勧めなのは、「NASA(アメリカ航空宇宙局) Johnson Space Center ツアー」です。観光客向けに解放された「Space Center Houston」内にはトラムツアーなどのアトラクションが数多く、全てを見学するには約4~6時間必要です。

ダウンタウンの南東約40キロに位置するこのセンターは、アポロ計画、スペースシャトル計画などNASAの主要なプロジェクトの中心となってきました。

「こちらヒューストン・・・」で始まる管制官とアポロ11号の月面着陸でのやり取りはこのセンターを通じて世界に放映されました。現在でも打ち上げ後のシャトルとの管制、宇宙飛行士の訓練、月の石や隕石の研究などNASAの心臓部とも言える役割を担っています。



a-sha@hのご紹介

広島大会の運営にはa-sha@hという名前のボランティアワーキンググループの皆さんが活躍されていることは草の根通信でも既報のとおりですが、今号ではその組織と活動内容等をご紹介します。

a-sha@h〔アーシャ〕の名前の由来

aogiri、summit、hospitality、alliance、at Hiroshima の頭文字

「アーシャ」とはサンスクリット語で「希望」という意味もあります。

設立趣旨

サミット広島大会の実行委員会や関係者と連携を取りながら、より良いプログラムをボランティアが中心となって企画・運営する役割を担うために設立する。その一環としてボランティア養成講座も実施する。広島大会終了後も、日本と米国をはじめとする世界各国との草の根交流を促進するための活動を行う。

発足日 2001年11月14日

所在地 ひろしま国際センター内

広島市中区中町8-18 広島県外プザ 6F

e-mail ; info@a-sha.jp URL ; www.a-sha.jp



写真中央が遠山さん-a-sha@h代表



a-sha@h主催のボランティア講座始まる！

a-sha@hが主催する「ボランティア英語通訳ガイドリーダーセミナー」が2002年3月23日(土)から開催されています。サミット広島大会でのボランティア活動希望者を対象に5月25日(土)まで計5回、1回約2時間のボランティアによる手作りの養成講座で、講座修了者には修了証書が交付されます。

a-sha@hの活動は実行委員会の事務局として大会プログラムの企画・運営に携ったり、ホームページやビデオを活用した情報発信や、参加者からの質問や要望への対応などアメリカの側参加者とのコミュニケーションを取ったり、ボランティアを募集し、彼らを対象に養成講座を実施するなど大会全般にわたる準備作業を行います。ボランティア養成講座については、上記セミナーの開催や、3月27日(水)にはロサンゼルスシグマ・スクール(日英バイリンガル教育・全日制)学園長で、海外子女教育情報センター(INFOE)代表の松本輝彦氏による「国際理解教育の中の英語教育」講座を開催するなど、様々な機会をとらえてボランティアに刺激を与え、意識や能力を高めていきたいと考えています。こうした講座は全てボランティアの運営により実践されています。



NTT Com HPでネットデビューしたa-sha@h

〔ボランティア英語通訳ガイドリーダーセミナープログラム〕

回	月 / 日 (曜)	時 間	内 容	講 師
1	3 / 23 (土)	9 : 30 ~ 12 : 00	・ガイダンス (講座の説明) ・通訳スキル	中 尾 好 美
2	4 / 13 (土)	10 : 00 ~ 12 : 00	・通訳スキル	高 味 伸 子
3	4 / 27 (土)	10 : 00 ~ 12 : 00	・ガイド実践	高 味 伸 子
4	5 / 11 (土)	10 : 00 ~ 12 : 00	・ガイド実践	山 岡 秀 則
5	5 / 25 (土)	10 : 00 ~ 12 : 00	・通訳スキル	奥 井 元 子

京都大学ボランティア (Compa-us) 中国で草の根交流

京都大学生のサミット大会ボランティア組織Compa-usが中国を訪れ草の根交流を実践してきました。自らの企画によるものですが財団も活動をサポートし、この貴重な経験がより一層サミット大会参加への熱意へとつながりました。その手記を紹介します。

3/2~3/9の一週間、Compa-Usの12名は沈陽と大連を旅行してきました。沈陽は、Compa-Usのメンバーである郭さんと陳さんの故郷です。また大連には、陳さんの母校の大連理工大学があります。今回の旅行は、「沈陽はどんなところか？行ってみよう！」などと話していたのがきっかけで企画されました。去年の9月頃から、メンバーで本格的に話し合いを始め、郭さん陳さん、そして大連理工大学の米さんに協力していただいて、なんとか実現することができました。

3/2(土)関空から大連に出発。大連理工大学の米(べい)さん(う)さんが、わざわざ空港まで迎えに来て下さいました。二人とも日本語がペラペラで大連に滞在中は通訳をして、中国旅行初日のこの日は、特に何かをしたわけではないのですが、到着早々に団体ビザでもめたり、タクシーの客引き争いに振り回されたりなどで非常に疲れました。あらかじめ、中国について最低限の知識くらい持っていくべきだったと反省しています。次の日は一日大連市内を観光し、偶然3/3が于さんの誕生日というので、夜、誕生パーティーをしました。3/4(月)から理工大学は新学期で、米さんと于さんに無理を言って午前中の日本語授業に参加させていただきました。午後は、いくつかのグループに分かれて授業で知り合った大学生達と一緒に大連市内を観光しました。翌3/5(火)の早朝には、大連を発ち、列車で4時間かけて沈陽に移動しました。駅まで陳さんに迎えに来ていただき、到着後すぐホテルに向かい、それから郭さんの母校である沈陽育才高校を見学に行きました。そこでは、高校生と話す機会があり、彼らの日本への関心の高さを知ることができました。沈陽での2日目、午前は満州事変の博物館、午後は故宮を観光しました。次の日も一日、グループに分かれて沈陽市内を観光しました。この日、大連に帰るグループと沈陽に残るグループに分かれるので夕食は全員でとりました。翌早朝、7名は、陳さんと一緒に再び列車で大連へ帰り、翌3/9(土)、大連空港まで陳さん、米さん、于さん達に見送っていただき、帰国しました。

一週間と比較的短い旅行でしたが、陳さん、米さん、于さん、大連理工大学の大学生、沈陽育才高校の高校生、列車内で隣に座っていた人、ホテルの受付の人など様々な人たちとの出会いで、中国語を少しは聞きとれるようになり一人で買い物ができるようになるなど、個人的にかなり成長しました。Compa-usメンバーもそれぞれで貴重な経験し、成長することができたのではないのでしょうか。

これまで授業やプログラムの打ち合わせなど、事務的なところでしか顔を合わせなかった皆が、旅行を通じて普段見ることのできない面を見せ合い、お互いをより知ることができました。僕は個人的に今回の旅行での一番の成果は、各自の成果もさることながら、Compa-usメンバーの仲がこれまで以上に濃いものになったことだと思います。



意見交換・交流のひとつコマ



シカゴ大会から子供サーカスがやってくる...?

第10回米国中西部大会で地域分科会を開催したインディアナ州ペルーから、子供サーカスの日本公演が計画中です。まだ計画段階ですが、サミット大会で培われた交流は続いています。

インディアナ州のペルーから今回来日したのは、Executive Director of Peru / Miami County, Economic Development Corporation のGary Nielanderさんです。Nielanderさんは、米国中西部大会でのペルー地域分科会で参加者と子供サーカスとの交流をプログラムされ、前年の静岡サミット大会にも参加されています。その際に本大会などで使用した会場のグランシップを見て、「ここでサーカス交流を子供たちにさせてあげたい」という気持ちをお持ちになりました。ペルー地域分科会での日本人参加者との交流により更にその思いを強め、この企画の実現に向けて動き始めました。

Nielanderさんは1月28日に日米中西部会理事長のLarry Ingrahamさんとペルーサーカス主席演技主任のBruce Embryさんと3人でグランシップを訪問し、サーカス実演の可能性を検討されました。アメリカに帰国後に協議を重ねた結果、アメリカ同時多発テロ事件後の安全性を考慮し、2003年ごろの実現を目指して交流を続けていくこととしました。まだまだ実現に向けて乗り越える壁は多々ありますが、子供たちに交流をさせてあげたいという気持ちで努力を続けておられます。

また、Ingrahamさんは、1月24日(木)に開催された財団の1月度幹事会にも出席され、ご自身の日本との交流の経験について講演するなど、出席者との交流を深められました。現在米国側のサミット大会カウンターパート財団が設立に向けて作業中であることは既報のとおりですが、全米各地でこうした動きへのサポートをしてくださる人脈が着々と形成されています。



静岡での意見交換模様



幹事会で講演するIngrahamさん

波多野理事長に聞く！！ 草の根のこころ

去る3月1日(金)、波多野フォーリン・プレスセンター理事長をインタビュー訪問しました。波多野さんにはCIE(国際草の根交流センター)理事長に就任いただいております。外務省時代の米国経験も豊富で、日米交流・ホームステイに強い関心と情熱をお持ちで各方面で御活躍になっておられます。

Q1. 理事長の米国での経験と日米交流についてお尋ねします。

A1. 米国での経験は3回それぞれ4年の在勤の機会に恵まれました。第1回目は戦後8年を経過して、まだ日本では物が充分にない1954年からです。まず2年間プリンストン大学に外務省から派遣してもらいました。お金持ちの学校で、日本では当時不足した食事の豊かさや物の豊富なことに驚きました。3年生からの編入でしたが、その前の夏休みに1ヶ月ほどホームステイをして、米国を知るうえでこの上ない大きな経験をしました。米国のホームステイは何もお構いはしてもらえずほっとらかしですが、それが反って米国人の生活の仕方、考え方を学ぶために良かったと思っています。あまり無理して歓迎しないで、ありのままの生活を見せるのもホームステイの目的ではないでしょうか。

Q2. 理事長の外交官としての3回の米国経験を教えてください。

A2. プリンストン大学を卒業して、米国大使館の大使の秘書をやりました。大学からの延長でワイシャツなんか腕まくりをして外国の大使を迎えて、「背広を、君、着なきゃだめだよ」と注意された経験を憶えています。第2回目は1976年から80年まで米国の大使館の公使で経済班長をしました。丁度日米自動車交渉が問題になっていました。米国は自ら輸入規制をしないで、日本が自主的に輸出を抑制せよとずいぶん無理を言うのですが、その背後には過去にさかのぼれば日本も自動車産業保護育成のため強引な輸入及び投資制限を行ってきたではないかという意識が窺えました。まさに日米の「競争の時代」の経験をした訳です。



第3回目は1990年から94年までニューヨークで国連代表部の大使として勤務しました。日本の経済成長でまさに「米国にうらやましがれる時代」という感じでした。

Q3. 日米の相互理解の必要性は随分以前から叫ばれていますが、これからの日米理解促進をどのように進めれば良いのでしょうか。

A3. 日米の相互理解は民間レベルではまだ改善の余地があると感じています。仕事の接触は多いが、人と人との交流と理解が充分ではありません。民間の交流はありますが理解が進んでいない。日本の対米理解のためには一番良いのは米国へ行ってホームステイをすることだと思います。米国人は移民の集まりの世界ですから会話が出来ないことをあまり気にしないでやってくれます。草の根交流で一番有効なのはホームステイです。草の根交流センター(CIE)はホームステイを中心に据えたアレンジをする財団として発展していても良いのではないのでしょうか。日本に来ていただいたときはホスト側が無理して大歓迎しすぎて一日で疲れてしまうことが多いのではないかと思います。これからは日本側もあまり無理はしないで、但し4~5日間のホームステイをして良さも悪さも分かってもらいながら、相互理解を進めていくべきだと思います。

Q4. 米国人の方々に迷惑をかけないようにホームステイを2泊に止めてきましたが4泊、5泊のホームステイも企画されても良いということでしょうか。

A4. 米国は4泊、5泊はさほど抵抗ないと思います。受け入れ方として特に大歓迎しない、好きなようにやりなさいという主義ですから。具体的には晩ご飯だけは必ず一緒に食べましょう、あとは米国の家庭生活を見てください、という訳です。問題は日本側にあります。この課題を探究していったら面白いと思います。フォーリン・プレスセンターは国際貢献の一環として一泊のホームステイを実施しています。財団(CIE)の対象は米国人ですから、日本でも英語がうまくなるとか、米国人と知り合いになるというインセンティブも含めて4泊、5泊のホームステイの企画を検討してはどうか。

